

白山ふるさと文学賞

第十一回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁烏敏部門】〈作文「母へのおもい」〉

中高校生の部 最優秀賞

## 「母への思い」

北辰中学校三年 松田 陽南子

みなさんは、「母の支え」についてどれぐらい考えたことがあるだろうか。私は、「母の支え」は普段あたりまえになっていることだと思っていた。掃除や洗濯、食事作りなどの一般的な家事だ。私と同じような考えをもっている人はたくさんいるだろう。しかし、私はアルバムを開いて気づくことができた。「母の支え」とはどういうことなのかを。

アルバムを開いた時、印象的で忘れられない思い出が私の目にとびこんできた。それは病院での思い出だ。私は、生後三ヶ月で、珍しい病気を発症した。すぐに入院をして、治療が行われた。生後三ヶ月のため、はつきりとした記憶はないが、アルバムにつづられた言葉を見て「母への感謝」があふれ出した。アルバムには「まずいもなく痛かったね。頑張った」「とても心配しました」「よく頑張ったね。もうすぐ退院」などの、私を励ますようなあたたかい言葉がつづられていた。私は、心配しながら見守ってくれていた母の姿に気づき、とてもうれしくなった。

しかし、私の戦いはまだまだ続いている。二才の時、二回目の手術が行われた。二回目の手術は、まずいありの手術だった。アルバムには、一回目の手術の時と同じような励ましの言葉がつづられていた。一回目の手術の時と同じように「母への感謝」があふれ出し、私はうれしくなった。それと同時に、自分の心が今までにないくらいあたたかくなっていくのを感じることができた。

月日が流れ、私は五才になった。三回目の手術が行われた。この時の記憶が一番はつきりとしている。三回目の手術の時は入院期間が長かったことを覚えている。保育園を欠席する期間が長くなり、退屈に感じるが多かった。そんな時、母は病院内にある売店で本を買ってきてくれた。本が大好きだった私は、とてもうれしく感じた。また、食事の時はいつもとなりにいてくれたり、夜になると、一緒にベッドで寝てくれたりなど、私の世話をたくさんしてくれたことを覚えてい

る。毎日私の世話をし、疲れている時もたくさんあっただろう。でも、私の前では疲れている様子を一切見せることはなく、いつも笑顔で、楽しそうにして一緒に過ごしてくれていた。今思うと、もし母がいつも笑顔でいてくれていなかったら、私は手術や入院期間を安心して乗り越えることができていなかったかもしれない。私が、最後まで安心して過ごせたのは、母のおかげであると思った時、さらにうれしくなった。そして、「母への感謝」を一番感じることができた。また、一番記憶がはつきりとしているからこそ、「母の支え」を深く感じ取ることができた。

三回目の手術が終わり、私は退院した。その後は、一年に一回病院へ通い、小学六年生で一度通院を終了した。あの時、母はとてもうれしそうな表情だった。その表情を見て、私もうれしくなった。しかし、病気は完全に治ったわけではない。昨年十月、病気が再発した。手術ではなく、薬を使って治療を始めた。母は不安そうな表情を見せていたが、私の薬での治療に前向きな姿勢だった。薬はとても苦く、毎日飲むのが大変だった。そんな時、母はチョコ味のプリンやちみつなどの甘いものを買ってきてくれた。私は、甘いものに、薬を混ぜて飲むようになり、毎日薬を薬に飲み続けられるようになった。私が薬を薬に飲めるようになった姿を見て、母はとてもうれしそうで、落ち着きのある表情をしていた。私は、薬の治療に前向きになって、いろいろな方法を使って薬を飲みやすくしてくれた母に感謝している。母のサポートがなかったら、私は治療に前向きになれず、真剣に治療と向き合うことができなかったと思う。母のサポートは大切だと実感した。

私は、最初、「母の支え」とは普段あたりまえになっているような一般的な家事だと思っていた。しかし、アルバムを開いて、たくさんの発見をすることができた。「母の支えは一般的な家事。」私はこの考え方が正しくないとはいわない。しかし、昔の出来事から感じ取るこ

とのできる思いこそ「母の支え」を深く知ることができるとの近道ではないだろうか。自分が今まで気づかなかった思いを知ることが母への感謝を示す一番良い方法であると思う。

私は「母の支え」「母への感謝」を忘れないために、日常の中でどんなに小さいことでも母に感謝していききたい。そして、「母の支え」を参考にして、日々の生活に活用していききたいと思う。母がつづったアルバムの言葉は、私に大切なことを示してくれた。このことを良い経験ととらえ、自分の成長の階段をすすんでいききたいと思う。

